

次年度に向けた改善方策

赤松学舎 世田谷区立松沢中学校
校長 山村 恵子

1 互いを尊重し、認め合う「心」をはぐくむ教育の推進

- (1) 教育相談体制を充実させる。傾聴する姿勢を大切にし、生徒の話をよく聞いて生徒一人一人のよさや個性を伸長する。また、保護者が教員に相談しやすい機能・関係性を構築する。
- (2) 道徳の授業や人権教育を通して、生徒自身が多様性や命の大切さを理解し、尊重する豊かな心を育む。
- (3) 日々の学校生活や行事を通して、生徒の自尊感情や認め合う力、よりよい人間関係をつくり上げる力を育てる。

2 確かな「社会力（これからの社会を生き抜く力）」をはぐくむ教育の推進

- (1) 学級活動や生徒会活動、学校行事、総合的な学習の時間、部活動などを意図的・計画的に行うことで、生徒の自治意識を高める教育を推進する。
- (2) あいさつをする、時間を守る、他人に迷惑をかけないなど、基本的な生活習慣の定着と規範意識の醸成を図る。
- (3) 3年間を見通したキャリア教育を展開する。また、生徒たちが将来の生き方を考える活動記録の蓄積となるように、キャリア・パスポートを活用していく。
保護者には、キャリア教育の実施内容や進路に関する情報を積極的に発信していく。
- (4) 様々な配慮を要する子どもに対して、個に応じた学習指導や生活指導、進路指導を工夫し、組織的対応を行うことで、その可能性を最大限に伸長し、個別最適化を実現する。

3 自ら学ぶ力、探究的な「学び」の推進

- (1) 自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究のプロセス」を繰り返し発展していくことを通して、学習内容や学び方を生徒が習得できるような「探究的な学び」を推進する。
- (2) タブレット端末やデジタル教科書などICTを活用した「より学習効果が期待される授業」「分かりやすい授業」に向けて、教材研究や準備を積極的に進める。
- (3) 言語活動を基盤とした「自分の考えを発信する学び」を積極的に取り入れる。
- (4) 様々な分野から講師を招き、体験活動を行うことで、多様性を理解し尊重する心の醸成や、多文化共生社会に生きる力を身に付けさせる。

4 信頼と誇りの持てる教育の推進

- (1) 学校経営方針や重点取組項目、防災も含めた安全指導について、より分かりやすい形で地域や保護者に発信する。
- (2) 地域の教育資源を活用した「職場体験」や「ボランティア活動」などの体験活動を充実させ、地域が参画する学校づくりを推進する
- (3) 各種たよりやホームページ、学校メール（すぐーる）などの広報活動を充実させる。